生物多様性ちばニュースレター

CHIBA

生命（いのち）のにぎわいとつながり

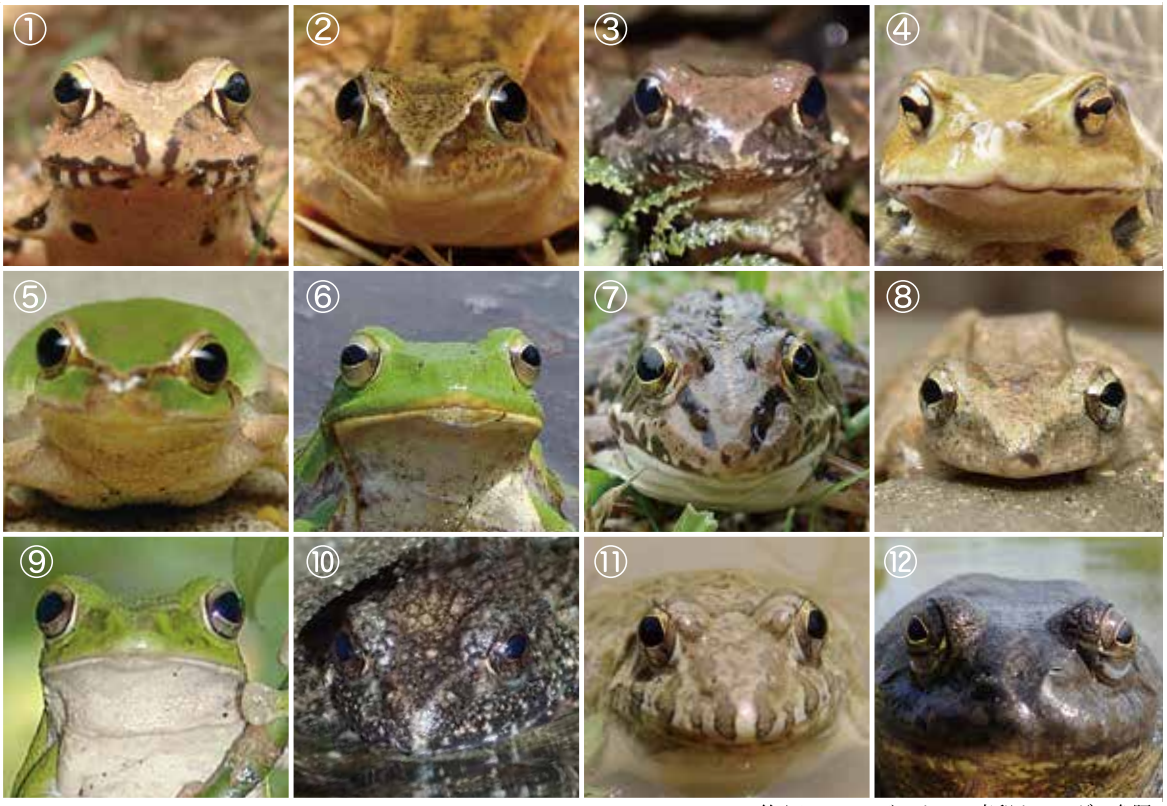
No.73

令和4年3月

春はカエルの季節。幼生（オタマジャクシ）時代は水中で成長し、かつ、成体になってからは種類によって異なる様々な環境で暮らすカエルの存在は、地域の生物多様性の指標ともなります。今回は千葉県に生息するカエルたちをどーんと大特集＆指名手配。この顔を見たら生命のにぎわい調査団へ。永久保存版でお届けいたします！

千葉県のカエルを指名手配

～この顔にピンと来たら調査団へ報告を～



答えは２ページのカエル産卵カレンダー参照

千葉県にカエルの仲間は在来種と国内外から移入された外来種をあわせて14種類が確認されています。そのうち比較的見つけやすいカエル12種類を県内指名手配します！

みなさんは何種類のカエルを見つけることができるでしょうか？ヒントとして次ページに在来種のカエル産卵カレンダーと特徴的な様子を掲載しましたので、それを参考にフィールドへ出かけてみてください。

見つけたら「生命（いのち）のにぎわい調査団」に入団して情報をお寄せください!一緒にカエル分布図を作りませんか?

CONTENTS

1　千葉県のカエルを指名手配 ～この顔にピンと来たら調査団に報告を～ …… 1
2　連携大学との研究成果発表会を開催しました …… 4
3　生物多様性に関する市町村職員研修会を開催しました …… 4
4　千葉県の外来種（タイワンシジミ） …… 4

何種類のカエルを見つけられるかな？ 田んぼや渓谷で探してみよう！
～カエル達の生きざまをご紹介～

千葉県のカエル産卵カレンダー（あくまでも目安です。産卵時期が異なる地域もあります。）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
①ヤマアカガエル	丘陵地や山間の田んぼ							
②ニホンアカガエル		平地や丘陵地の田んぼ						
③タゴガエル		山間の源流部						
④アズマヒキガエル			平地～山間の池					
⑤ニホンアマガエル				平地・丘陵地・山間の田んぼ				
⑥シュレーゲルアオガエル				平地・丘陵地・山間の田んぼ				
⑦トウキョウダルマガエル					平地や丘陵地の田んぼ			
⑧カジカガエル					山間の渓谷			
⑨モリアオガエル					山間の池や田んぼ			
⑩ツチガエル						丘陵地の池や渓谷の渕		

⑪ヌマガエル（国内移入種）、⑫ウシガエル（特定外来生物）
（この他に千葉県ではアフリカツメガエル（外来種）　とトノサマガエル（国内移入種）が確認されています。）

⑤ニホンアマガエル

⑥シュレーゲルアオガエル

⑦トウキョウダルマガエル

①ヤマアカガエル

②ニホンアカガエル

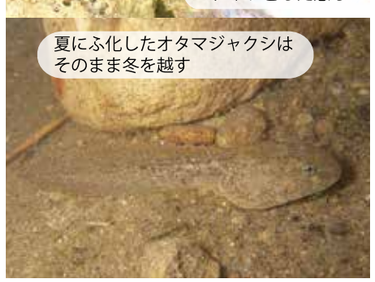
③タゴガエル

④アズマヒキガエル

⑧カジカガエル

⑨モリアオガエル

⑩ツチガエル



【注意】それぞれのカエルの見分け方は紙面の都合で割愛しました。図鑑やインターネットでお調べください。インターネットでは「カエル探偵団　両生類保全研究資料室」の「日本のカエル類検索表」が便利です（http://www.kaerutanteidan.jp/index.php/database）。

（大木 淳一　千葉県生物多様性センター）

連携大学との研究成果発表会を開催しました

令和3年11月27日（土）に「令和3年度千葉県と連携大学との研究成果発表会」を開催しました。これは、平成20年度及び平成27年度に千葉県と連携協定を締結した県内にキャンパスを有する8大学の生物多様性保全等に関する研究成果を発表する場で、今年度で12回目となります。

今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、初めてオンライン開催にて実施し、「野生生物保全と自然再生における官学民の協働」をテーマに、基調講演2題、個別発表14題の発表がありました。

基調講演では、千葉市動物公園の鏑木一誠園長より、「千葉市動物公園における屠体給仕の取り組み」の講演と、東邦大学理学部生物学科の長谷川雅美教授より、「関東におけるコウノトリの野生復帰－野田市の挑戦－：成果と課題」の講演がありました。

個別発表では、千葉科学大学、千葉工業大学、東京大学、東京情報大学、東邦大学の学生・グループ等から発表が行われ、熱心な議論が交わされました。

発表された講演要旨は、県生物多様性センターホームページ（https://www.bdcchiba.jp）に掲載しております。　（家敷 貴大　千葉県生物多様性センター）

生物多様性に関する市町村職員研修会を開催しました

令和4年1月14日（金）に生物多様性に関する市町村職員研修会をオンライン開催し、生物多様性を担当する多くの市町村職員の皆さまにご参加いただきました。

本研修は、まちづくりの主体である市町村職員の方々に、生物多様性への関わりについて理解を深めてもらうことを目的に毎年開催しています。

今年度は、来年度に決定される予定である生物多様性の次期世界目標、それを受けて策定される次期生物多様性国家戦略などの生物多様性関連の動向についての説明のほか、市町村の生物多様性地域戦略の事例や特定外来生物（植物）の駆除活動事例の紹介、さらに、県と市町村の連携促進を図るため千葉県環境研究センターの紹介を行いました。

市町村の生物多様性地域戦略の事例紹介では、野田市みどりと水のまちづくり課から、生物多様性のだ戦略の策定経緯や戦略策定の利点、現在進めている第２期戦略策定への取組やその中でてきた課題などについて御講演いただきました。

特定外来生物の駆除活動事例紹介では、銚子市生活環境課から、ごみゼロ運動などを活用し、行政と市民が協力して取り組んできたオオキンケイギクとアレチウリの駆除活動について御講演いただきました。

（西川 歩美　千葉県生物多様性センター）

千葉県の外来種

タイワンシジミ

“シジミ”は、アサリなどと同じマルスダレガイ目に属する二枚貝です。江戸時代には下町の庶民の味として親しまれ、日本人にとっては馴染みのある食材です。現在、食用として流通している“シジミ”の大半は、汽水環境に生息するヤマトシジミですが、日本の湖沼や河川などの淡水環境には、マシジミという別種が生息しています。マシジミは、急速にその数が減少しており、千葉県レッドリスト2019では最重要保護生物Ａにランクされています。ところが近年、都市部の公園内の池や水路内に、“シジミ”の大量発生が観察されています。実は、これらはタイワンシジミという外来種なのです。

タイワンシジミは中国や台湾を原産地とし、国内では1985年頃から定着が確認され、北海道を除く全国に分布が広がっています。その分散能力はすさまじく、北米大陸の例では、西海岸から東海岸まで50年足らずで到達したことが知られています。

その殻はマシジミによく似ており、外観だけでは区別が困難です。繁殖の様式もマシジミと同様なのですが、タイワンシジミは精子をより大量に放出するため、マシジミが生息する環境にタイワンシジミが侵入すると、数年後には置きかわってしまうことがあります。また、送水用のパイプを詰らせる原因になるなど人間活動への影響もあることから、環境省の生態系被害防止外来種リストでは、「その他の総合対策外来種」にランクされています。タイワンシジミが侵入した経緯として、中国から輸入されているシジミ類に混ざっていたものが、野外に投棄された可能性が考えられ、さらにはホタル保全のためのカワニナ放流に伴って拡散した例もあるようです。

タイワンシジミのように、在来種との区別が困難な生き物が侵入した場合、その存在に気がつかないまま、いつのまにか在来種が消えてしまう危険があります。身近にいる生き物を注意深く観察して、その変化に関心を持つことが大切です。

（伊左治 鎭司　千葉県生物多様性センター）

生物多様性ちばニュースレター　No.73　令和4年3月31日発行
編集・発行　千葉県生物多様性センター（環境生活部自然保護課）
〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2（千葉県立中央博物館内）
TEL 043(265)3601　FAX 043(265)3615　URL https://www.bdcchiba.jp
リサイクル適性Ⓐ この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。